

資料4 施策別検証シート

後期行動計画の策定においては、「子育て支援に関する市民アンケート調査」、「所管課調査」等を実施しながら、施策別に前期行動計画の検証を行い、子どもや親を取り巻く現状・課題を明確にしました。

施策別の前期行動計画の検証にあたっては、「施策別検証シート」を使用しながら、現状・課題を整理しました。

清須市次世代育成支援行動計画＜前期＞ 施策別検証シート

1 計画（PLAN） 基本目標 1：『地域』における子育て支援の推進 施策の方向：（1）子育て交流・地域コミュニティづくり	前期行動計画の課題： 1. 「子どもが危険な目に遭いそうなときの手助けや保護」、「子どもが良くないことをしているときは、積極的にしかってほしい」など、地域社会に対して子どもとの関わりを求めています。 2. 地域活動の活性化をするために、「地区活動の連携や活性化」、「グループづくりの支援」、「父親が参加する機会の充実」、「広報などによる情報提供」などを求める声が多くなっています。 3. 4割弱が「自分に合えばサークル活動に参加して協力したい」と回答しています。
2 実施（DO） 【具体的事業】 別紙個別事業評価シート	【市民アンケート調査の結果（アウトカム）で把握した現状・課題】 ①子育てに関する活動への参加状況（乳幼児 33、33-1） ・子育てに関する活動への参加状況をみると、「現在参加している」の割合が 9.6%、「現在は参加していないが、今後機会があれば参加したい」の割合が 32.8%、「現在は参加しておらず、今後も参加するつもりはない」の割合が 56.1%となっています。また、「現在参加している人」「現在は参加していないが、今後機会があれば参加したい」のうち、行政に求める活動支援としては、「活動場所の提供（場所貸し等）」の割合が 53.5%と最も高くなっています。 ②地域に期待する子育てや子どもへの関わり（乳幼児 38、小学生 37、中学生 22） ・地域に期待する子育てや子どもへの関わりをみると、「通園・通学時に安全を確保してくれる」「子どもがいたずらや危険なことをしたときに注意や報告をしてくれる」の割合が高くなっており、日常生活において安全に関する地域ぐるみの取組みが求められています。
3 評価（CHECK） 【所管課（アウトプット）で把握した現状・課題】 - 児童館～育児クラブ～__放課後子ども教室とどのような連携をしていくか。ひとつの児童館で 2 クラブを開催しているなど、開催場所をどうするか、放課後児童クラブ単独の場所をどう確保するか。障害児受け入れ時に加配職員の配置をどう確保していくか。 - 育児教室__増え続ける育児不安に対応しきれていない。安心して育児ができるよう専門職と連携し育児教室の拡充を図る必要がある。育児教室が 12 回で 240 人、親子で集めるため、大人数で対応できない。時間を分けて少人数で行いたい。 - 子育て支援センター・保育園・幼稚園～室内と園庭の開放～__各地区に適正な配置がなされていない。 - 保健センター～ふたごの会～__多胎育児家庭が増加しているが地域での十分なサポート体制ができていない。今後、育児困難感や孤立感を解消するためボランティアの協力も得て育児負担感の軽減を図る必要がある。母親たちが自主活動をできるように支援していく。 - 子育てネット会議__連携の強化・情報交換の充実が必要 - 商店街空き店舗などを活用した「子育てサロン」の設置__清須市総合福祉センターに「世代間交流ルーム」という子育てひろばが 1 箇所できた。	現状・課題のまとめ - 子育て中の保護者のサークル等の活動に対して、半数近くの人に参加意欲が見られない状況がある。 - 地域に期待する子育てや子どもへの関わりについて、「通園・通学時に安全を確保してくれる」「子どもがいたずらや危険なことをしたときに注意や報告をしてくれる」の割合が高くなっている。 - 育児困難感や孤立感を解消するためボランティアの協力も得て育児負担感の軽減を図る必要がある。

清須市次世代育成支援行動計画＜前期＞ 施策別検証シート

1 計画（PLAN） 基本目標 1：『地域』における子育て支援の推進 施策の方向：（2）地域における子育て支援サービスや相談体制の充実	前期行動計画の課題： 1. 子育てに関する情報源は、「子育て中の仲間」、「友人・近所の人」、「子どもの祖父母」が多くなっています。 2. 子育てに関する相談相手は、「配偶者」、「子どもの祖父母」、「子育て中の仲間」、「友人・知人」が多くなっています。 3. 育児の不安や悩みは、就学前・低学年とともに共通して「安全な環境」、「子どもの精神的な発達のこと」が多く、また、就学前では、「社会活動と子育ての両立」、「経済的なこと」、小学生では、「勉強や進学」、「子どもの友人」等が多くなっています。 4. 相談できる場所として、「保護者同士の相談・情報交換の機会づくり」、「総合的な窓口の設置」、「地域で気軽に相談できる場所」等を望む声が多くなっています。
2 実施（DO） 【具体的事業】 別紙個別事業評価シート	③子育てに関する情報の入手方法（乳幼児 32、小学生 30、中学生 15） ・子育てに関する情報の入手方法をみると、「隣近所の人、知人、友人」の割合が、乳幼児、小学生、中学生ともに 70％を超えて最も高く、次いで、乳幼児、小学生では「親族」「保育所、幼稚園、学校」の順で、中学生では「親族」「テレビ、ラジオ、新聞」の順となっています。また、「市の広報紙、ホームページ」は乳幼児で 29.8％、小学生で 21.3％、中学生で 16.4％と、いずれも中位以下の利用となっており、情報の提供手段に工夫が求められます。
3 評価（CHECK） 【所管課（アウトプット）で把握した現状・課題】 ・子育て支援センター__場所が狭い、適正配置がなされていない。 ・ファミリーサポートセンター__病後児、病中、障害児に対しての対応を検討する必要がある。依頼会員と提供会員数に開きがある。依頼会員数は増加しているが、提供会員数は増えていない。 ・家庭相談員の配置・各種相談機関との連携(充実)__専門的知識を必要とする相談が増えてきている。 ・子育て情報__ホームページに掲載されていなかったファミサポや支援センターの情報を掲載するようになった。保育園の空き情報などの提供も行っている。 ・子育てマップの作成__「子育てマップ」を作成し、児童館をはじめとした関係機関にて配布を行った。今後は各関連機関や担当課と連携し、市民ニーズに即した内容に変更していく。	④ファミリー・サポート・センターの利用状況（乳幼児 23、小学生 21） ・ファミリー・サポート・センターについては、「利用している」の割合が乳幼児で 1.6％、小学生で 0.6％となっています。このことから制度について認知度が低いことが考えられ、今後はファミリー・サポート・センターのサービス内容や仕組みについての更なる周知が必要といえます。
【市民アンケート調査の結果（アウトカム）で把握した現状・課題】 ①不安や負担など感じていること（乳幼児 30、小学生 28、中学生 13） ・子育てに関して、不安や負担など感じていることをみると、乳幼児では 1 位：「子どもの教育（学力、しつけ）に不安がある」、2 位：「子育てにかかる経済的な負担が大きい」の順で、小学生では 1 位：「子どもの教育（学力、しつけ）に不安がある」、2 位：「子ども友達づきあいの不安」、中学生では 1 位：「子育てにかかる経済的な負担が大きい」、2 位：「子どもの教育（学力、しつけ）に不安がある」となっています。	⑤「子育て新川サポートステーション タイム」「保育サポート えぶろん」の利用状況（乳幼児 24、小学生 22） ・「子育て新川サポートステーション タイム」「保育サポート えぶろん」については、「利用している」の割合が乳幼児で 2.4％、小学生で 3.9％となっています。このことから保育サポーターについて認知度が低いことが考えられ、今後はファミリー・サポート・センター同様、サービス内容や仕組みについての更なる周知が必要といえます。
②不安や負担など相談相手（乳幼児 31、小学生 29、中学生 14） ・子育てに関する悩みや不安の相談相手をみると、乳幼児、小学生、中学生ともに「配偶者・パートナー」「その他の親族（親、兄弟・姉妹など）」「隣近所の人、知人、友人」など身近な人に相談する結果がうかがえ、「相談相手がいない」の割合はあまり高くありません。また、「保育所、幼稚園、学校の先生」やその他の公的な機関にも相談している結果もあり、身近な人や公的な機関の利用など、内容に応じて相談相手を選択していることがうかがえます。少数であっても「相談相手がいない」と回答した人への対応が必要となります。	⑥子育て支援センター等の事業の利用状況（乳幼児 25、25-1） ・子育て支援センターの利用状況をみると、「利用している」の割合が 18.3％となっています。また、利用していない家庭 80.9％のうち、その理由として「特に理由はない」「子育て支援センターを知らない」「サービスの利用方法がわからない」を合わせると 57.4％あり、子育て支援センターでのサービス内容等が周知できていないことが考えられます。
	現状・課題のまとめ ・子育てに関する悩みや不安の相談相手は、身近な人や公的な機関など、内容に応じて相談相手を選択していることがうかがえます。 ・ファミリー・サポート・センターや子育て支援センター等の認知度が低いことから、サービスが身近なものとして気軽に利用できるような工夫が求められています。 ・少数であっても「相談相手がいない」と回答した人への対応が必要。 ・保護者の中には家（ひとり）で悩み、相談できない人がいる。

清須市次世代育成支援行動計画＜前期＞ 施策別検証シート

1 計画（PLAN） 基本目標 1：『地域』における子育て支援の推進 施策の方向：（3）児童虐待への対応	前期行動計画の課題： 1. 子育てをしている今の気持ちは、「子育てをすることで、自分も成長している」、「子どもがいると、毎日の生活が楽しい」が6～7割と高い一方で、「子育てについて不安になったり、悩むときがある」、「生活や気持ちにゆとりがなく、いらだつことがある」が5割前後となっています。さらに、「子どもを虐待しているのではないかと思うことがある」は1割弱となっています。 2. 親が親になりきれていなかったり、子育てに対しての自信とゆとりを失ったりすることで、虐待等が発生していることから、地域ぐるみの発見・防止ネットワーク体制が重要な課題となっています。
2 実施（DO） 【具体的事業】 別紙個別事業評価シート	
3 評価（CHECK） 【所管課（アウトプット）で把握した現状・課題】 ・発生予防__虐待のハイリスク家庭の増加に伴い緊急時や勤務時間外などの相談や支援は十分とはいえない。親の孤立感や負担感の軽減をめざし地域での支援体制の充実を図る必要がある。子育て支援課との連携を強化する。 ・早期発見・早期対応__ハイリスク妊婦や虐待の危険のある家庭に対しての訪問、保健師や保育士、教職員に対しての虐待についての研修を行うことで、早期発見と関係機関との連携を強化していく必要がある。 ・サポート体制の強化__ハイリスク妊婦や虐待の危険のある家庭に対しての訪問、保健師や保育士、教職員に対しての虐待についての研修を行うことで、早期発見と関係機関との連携を強化していく必要がある。 ・地域のサポート体制づくり__ハイリスク妊婦や虐待の危険のある家庭に対しての訪問、保健師や保育士、教職員に対しての虐待についての研修を行うことで、早期発見と関係機関との連携を強化していく必要がある。	現状・課題のまとめ ・虐待のハイリスク家庭の増加に伴い緊急時や勤務時間外などの相談や支援は十分とはいえない。 ・親の孤立感や負担感の軽減をめざし地域での支援体制の充実を図る必要がある。 ・ハイリスク妊婦や虐待の危険のある家庭に対しての訪問、保健師や保育士、教職員に対しての虐待についての研修を行うことで、早期発見と関係機関との連携を強化していく必要がある。

清須市次世代育成支援行動計画＜前期＞ 施策別検証シート

1 計画（PLAN） 基本目標2：子どもや若者の『生きる力』の育成 施策の方向：（1）心豊かで創造性を育む教育の推進	前期行動計画の課題： 1. 学校の教育に望むこととして、「基礎学力をしっかりと身につける」、「自ら学ぶ意欲・方法を身につける」、「考える力や創造力を伸ばす」、「健康・体力づくりに力を入れる」などの充実を求める声が多くなっています。 2. 子ども自身の『生きる力』を育む教育が求められています。
2 実施（DO） 【具体的事業】 別紙個別事業評価シート	【市民アンケート調査の結果（アウトカム）で把握した現状・課題】 ①子育てにおいて、家庭で大切にしていること（小学生 39、中学生 24） ・家庭で大切にしていることをみると、「挨拶やお礼をきちんとと言えること」の割合が最も高くなっており、しつけについては家庭教育という考え方がうかがえます。 ②子育てにおいて、学校で大切にしてほしいこと（小学生 39、中学生 24） ・学校で大切にしてほしいことでは、「のびのびと育て、自主性や意欲・個性を伸ばすこと」の割合が最も高くなっており、体験を通じ人間性を育成する場としては学校教育という考え方がうかがえます。
3 評価（CHECK） 【所管課（アウトプット）で把握した現状・課題】 ・「総合的な学習の時間」などによる特色ある学校づくりの推進__開かれた学校で協力が得られるようになった。地域の学校としての存在を増すために今後も続けることが重要。生きる力の育成に向けての時間がなくなる（ゆとりがなくなる）。（総合学習3年生から6年生70時間、各学年35時間減少） ・道徳教育__多様な考え方をもった保護者がいることで、子どもたちも多様な子どもたちになる。情報モラルが課題である。親が体験したことのないことを子どもが体験している。携帯電話も簡単に持たせないようにすることが望ましいが現状はできていない。 ・福祉教育__今後に向けて時間が足りなくなる。マナーリ化することが課題である。 ・職場体験学習__地域の理解が得られて、職場体験の受け入れ先が充実している。一方、①マナーリ化する、②学校側としては体験時間を伸ばそうとしているが、受け入れ側に迷惑をかけている。受け入れてくれるところは積極的に受けてくれる。事業所の開拓が必要である。 ・乳幼児とのふれあい体験__現在、やっていない地域がある。次年度に向けて準備中。今後、指導要領では必須になっている。 ・地域におけるスポーツ活動の推進__総合型地域スポーツクラブ創設へ向けて研究。指導者やスポーツボランティアをどのように育成していくかが問題。 ・少人数小中学校における学習指導講師の派遣__適正な教員配置が課題。 ・小中学校内 LAN 整備事業__設置したコンピューターの稼働率の向上が課題。 I C P 化に向けて使いやすい環境に努めている。 ・教職員の研修__年齢のアンバランス。活性化が停滞する。授業研究に取り組んでいるため、それぞれの教員の授業力が期待される。（小学校25人、中学校13人を採用） ・地域の資源・人材を生かした学校教育の推進__理解ある地域のボランティアが増えている。双方向の交流があって成果があがっている。 ・保育園・幼稚園と小学校及び小学校と中学校間の連携__体験入学する段階で、1年生の子と交流している。 ・幼稚園と保育園の連携__具体的な現状と今後の方向性についてまとめた「清須市幼児教育プラン」を策定した。今後は現状に適するかどうか検討を行う必要がある。 ・スクールカウンセラー派遣事業__各学校に週1回1名ずつ配置。小学校が市から、中学校は県から配置している。 ・教育相談__各学校とも工夫しながら、教育相談の時間を設けているけれども、子どもが学校にいる時間に、子どもを待たせているときの管理面などに課題がある。 ・不登校児童などグループ指導適応指導教室__環境も良いところでできており、かなり有効には活用できるが、こられない子はこられない状況。	現状・課題のまとめ ・多様な考え方をもった保護者がいることで、子どもたちも多様である。親が体験したことのないことを子どもが体験している。 ・学校で大切にしてほしいことでは、「のびのびと育て、自主性や意欲・個性を伸ばすこと」の割合が最も高くなっており、体験を通じ人間性を育成する場としては学校教育という考え方がうかがえる。

清須市次世代育成支援行動計画＜前期＞ 施策別検証シート

1 計画（PLAN） 基本目標 2：子どもや若者の『生きる力』の育成 施策の方向：（2）主体性を育む多様な体験・学習の場づくり	前期行動計画の課題： 1. 子どもを取り巻く環境の変化として、6割弱が「戸外で遊ぶ機会が少なくなった」と感じています。 2. 児童が参加してみたい地域活動として、「保育園などで、小さな子どもたちと遊んだり、お話をするなどのボランティア活動」や「河川の清掃など自然を守る活動」などが高くなっています。 3. 子ども自身の地域活動への参加状況をみると、「子ども会活動」が8割弱、「スポーツ活動」が3割となっています。 4. 各種ボランティア活動の場や子ども会など、様々な地域活動に参加を推進していく必要があります。
2 実施（DO） 【具体的事業】 別紙個別事業評価シート	【市民アンケート調査の結果（アウトカム）で把握した現状・課題】 ①時間帯ごとの子どもの過ごし方（小学生 23、中学生 9） ・時間帯ごとの子どもの過ごし方をみると、小学生の平日で、全体的に「塾や習い事に行っている」割合が高くなっています。中学生の平日では、16～18時は「クラブ活動をしている」、18～20時は「保護者や祖父母等の家族・親族（大人）と過ごしている」の割合が高くなっており、18時までは、クラブ活動を行い、それ以降に帰宅する子どもと、塾や習い事に通っている子どもに大半が分かれていることがうかがえます。また、「友だちと外で遊んでいる」「友だちの家にいる」などの割合が低くなっていることも特徴です。
3 評価（CHECK） 【所管課（アウトプット）で把握した現状・課題】 ・子どもが担い手となる地域活動__子どもたちの部活動があるため、参加できない子どももいる。開催日が土日になるため、子どもたち（特に中学生）が部活動を優先するため、参加できない子どもがある。中には、部活動単位で実施しているところもあるため、そういう方法もあることを啓発したい。 ・児童館や地域における各種クラブ活動__各児童館におけるクラブ数は充実している。参加者数も19年度に比べて20年度は増加している。開催場所の確保、これ以上充実する場合の確保が難しい。 ・歴史とのふれあい__学校との連携が課題。文化財等の講演会には出席してくれる人も多い。今後はガイドボランティアの育成を図っていく。養成講座には20人の募集に40人の応募があった。 ・芸術・文化とのふれあい__ふれあい芸術劇場を毎年映画や能楽、クラシックなど市民が本物の芸術に触れられる機会を提供している。宣伝の手段を検討し、さらなる周知をしていくことが課題。 ・自然とのふれあい体験__実施している小学校もある。 ・国際交流__スペインを中心に5カ国において姉妹都市交流を実施している。フレンドシップ事業を実施している。外国語講座、料理講座等を実施している。	②子ども同士が交流などを行うことができる場として望むこと（小学生 24、中学生 10） ・居場所として、子ども同士で交流など行うことができる場に望むことの問いで、小学生では1位：「放課後に子ども同士で自主活動などができる場」、2位：「子どもに勉強や社会のルールを教えてくれる場」の順で、中学生では1位：「子どもに勉強や社会のルールを教えてくれる場」、2位：「土・日曜日に子ども同士で自主活動などができる場」の順になっています。 ③地域活動やグループ活動への参加状況（小学生 25、中学生 11） ・小学生では、「スポーツ活動」の割合が64.9%と最も高く、次いで「子ども会等の団体活動」の割合が56.4%、「キャンプ等の野外活動」の割合が40.2%となっています。中学生では、「スポーツ活動」の割合が59.8%と最も高く、次いで「子ども会等の団体活動」の割合が50.8%、「キャンプ等の野外活動」の割合が33.2%となっています。
	現状・課題のまとめ ・16時から18時の時間帯では、小学生は塾や習い事に通っている子どもが多く、中学生はクラブ活動している子どもが多く占めているが、一方では、子ども同士が交流などを行うことができる場として望むこととして、放課後に子ども同士で自主活動などができる場や、子どもに勉強や社会のルールを教えてくれる場を望んでいる。 ・子どもたちの部活動があるため、参加できない子どももいる。

清須市次世代育成支援行動計画＜前期＞ 施策別検証シート

1 計画（PLAN） 基本目標3：『家庭』における子育てと社会活動の両立支援 施策の方向：（1）親子のふれあいの推進	前期行動計画の課題： 1. 親子交流を図る地域の催し物等に対して、就学前保護者の7割強、低学年保護者の6割強が参加したい（「ぜひ参加したい」、「条件次第で参加したい」）と思っています。 2. 父親が育児によく参加している割合は、就学前保護者が4割弱、低学年保護者が3割強と、年齢が高くなると、関わりが低くなっています。また、「家事」については、就学前保護者、低学年保護者ともに、半数弱の父親が参加（「よく参加している」又は「時々参加している」）しています。
2 実施（DO） 【具体的事業】 別紙個別事業評価シート	【市民アンケート調査の結果（アウトカム）で把握した現状・課題】 ①子育てにおいて、家庭で大切にしていること（小学生39、中学生24） ・家庭で大切にしていることをみると、「挨拶やお礼をきちんと言えること」の割合が最も高くなっており、しつけについては家庭教育という考え方がうかがえます。 ②子育てにおいて、学校で大切にしてほしいこと（小学生39、中学生24） ・学校で大切にしてほしいことでは、「のびのびと育て、自主性や意欲・個性を伸ばすこと」の割合が最も高くなっており、体験を通じ人間性を育成する場としては学校教育という考え方がうかがえます。
3 評価（CHECK） 【所管課（アウトプット）で把握した現状・課題】 ・父親の育児参加・親父の活動__父親の参加は土曜日開催に集中しているため、パパママ教室以外でも、父親の育児参加を促す事業が土曜日に開催されるとよいと考えられる。 ・親育ち・孫育て事業__家庭教育推進事業のなかで実施しているが、単独事業として実施してはいない。	
	現状・課題のまとめ ・小学生、中学生の保護者で「しつけについては家庭教育」「自主性や意欲・個性を育成する場としては学校教育」と回答している。

清須市次世代育成支援行動計画＜前期＞ 施策別検証シート

1 計画（PLAN） 基本目標3：『家庭』における子育てと社会活動の両立支援 施策の方向：（2）子育て世代の社会参加の支援	前期行動計画の課題： 1. 子育てと就労の両立のためには、「配偶者が家事や育児を分担すること」、「保育施設・放課後児童クラブの充実」等を必要としています。 2. 主に世話している保護者（母親）が就労（休暇中を含む）している割合は、0歳で3割弱、1歳で4割弱、4、5歳では8割弱と、就学前では子どもの年齢が上がると高くなり、低学年ではやや減少し、6割前後となっています。
2 実施（DO） 【具体的事業】 別紙個別事業評価シート	【市民アンケート調査の結果（アウトカム）で把握した現状・課題】 ①育児休業制度の利用状況（乳幼児 27、27-2） ・育児休業制度の利用状況をみると、「利用しなかった」の割合が81.2%となっており、利用の低さが課題となっています。また、利用した人でも、育児休業明けの保育サービスの利用について、「育児休業期間を調整せずに利用できた」の割合が36.4%となっており、育児休業明けにスムーズに就労へ復帰できていない現状がうかがえます。
3 評価（CHECK） 【所管課（アウトプット）で把握した現状・課題】 ・男女共同参画社会推進のための啓発__21年3月男女共同参画プランを策定した。 ・職業能力の向上・再就職支援__市独自で職業的な講座は開講していない。再就職支援は母子家庭では、子育て支援課、その他は産業課が担当している。 ・雇用者への啓発__不況下にあり、失業者の増加、雇用状況の悪化により、時短をはじめとする労働諸条件の改善が進む機運は難しい状況にある。	②仕事と子育てに関する状況（乳幼児 29、小学生 27、中学生 12） ・仕事と子育てに関する父親の状況をみると、乳幼児、小学生、中学生ともに「仕事と子育ての両立を図るように努めている」の割合が最も高くなっています。一方で、母親の状況をみると、乳幼児、小学生では「仕事よりも子育てを優先している」の割合が高く、中学生では「仕事と子育ての両立を図るよう努めている」の割合が高くなっています。 ③男性の家事・子育て・教育への参加、女性が子育てしながら働き続けるために必要なこと（乳幼児 35、小学生 34、中学生 19）（乳幼児 36、小学生 35、中学生 20） ・男性の家事・子育て・教育への参加に必要なことをみると、乳幼児、小学生、中学生ともに「労働時間の短縮や休暇制度を普及させる」「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合う」「家事や子育てへの参加などライフスタイルの変化に対する抵抗感をなくす」が上位を占めています。 また、女性が子育てをしながら働き続けるために必要なことをみると、乳幼児、小学生、中学生ともに「子育てに関する施設・サービスを向上する」が最も高くなっており、公的な子育て支援サービスを充実することが求められています。
現状・課題のまとめ	
・育児休業制度の利用状況として、「利用しなかった」の割合が大半を占めており、利用した人でも育児休業明けにスムーズに就労復帰できた割合は低くなっています。 ・男性の家事・子育て・教育への参加に必要なことをみると、「労働時間の短縮や休暇制度を普及させる」の割合が最も高くなっています。 ・女性が子育てをしながら働き続けるために必要なことをみると、「子育てに関する施設・サービスを向上する」「短期勤務、フレックスタイム、在宅勤務などの制度を導入する」が高くなっています。	

清須市次世代育成支援行動計画＜前期＞ 施策別検証シート	
1 計画（PLAN） 基本目標3：『家庭』における子育てと社会活動の両立支援 施策の方向：（3）子育て支援サービスの充実 ～保育園・幼稚園、放課後児童クラブ～	前期行動計画の課題： 1. 0歳、1歳の保育ニーズが高まっています。 2. 一時預かり、病後児保育など、多様なニーズが求められています。 3. 保育園に対しては、「友だちとのびのびと遊ぶこと」、「自然体験など多様な体験をすること」を望む声が多くなっています。 4. 放課後児童クラブに対しては、「小学校高学年になっても利用できるようにする」、「利用時間を延長する」、「日曜日・祝日に利用できるようにする」などの希望が多くなっています。 5. 高学年の放課後児童クラブのニーズが高まっています。
2 実施（DO） 【具体的事業】 別紙個別事業評価シート	⑤ショートステイの利用意向（乳幼児 19・小学生 17） ・宿泊を伴う一時預かりについては、乳幼児では「あった」の割合が 11.3%、小学生では 12.2%しかなかったものの、そのうちの一年間の対処方法として「親族や知人に預けた」の割合が乳幼児で 94.3%、小学生で 93.8%となっており、公的な保育サービスに依存せず親族や知人に預けることで対応していることがうかがえます。
3 評価（CHECK） 【所管課（アウトプット）で把握した現状・課題】 ・地域に開かれた施設づくり__利用者数が増加しており、中高生の参加者数も増加している。場所の確保、職員の配置などこれ以上の事業拡大は難しいと考えられる。施設の老朽化が著しく、安全の確保が重要になってくる。 ・食育の推進__離乳食講習会の参加者は昨年度に比べて増加している。レトルトの食品が増えている中、簡単に作れるメニューを紹介し、実際に試食してもらうことで、手作りの良さや、「食」への理解も深まり、親子の愛着関係も深まると考えられる。父親も参加できる事業があるとよりよいと考えられる。 ・待機児童ゼロ作戦__新清洲保育園においても 0 歳児受け入れを開始した。4 月当初については待機児童はゼロだが、中途入所希望については待機児童がでる場合がある。また、3 歳未満児については、対応できない場合がある。入所希望の低年齢児化が進んでいる。 ・多様な保育サービス__病後児保育を新たに 1 箇所新設する予定であり、21 年度から延長保育の預かり時間も延長している。19 年度からは延長保育を全園に拡大した。多様な保育ニーズに対応するためには保育士の確保が必要。一時保育の空き教室の確保が難しくなど、保育ニーズに対応した施設の確保が難しい。 ・保育園などの施設の整備__須ヶ口保育園の整備を進めている。財政的な問題から、優先順位をつけてとりかかるしかない。 ・共同保育所などに対する運営支援__運営補助を実施している。19 時以降にしか子どもの迎えにいけない人は利用している。 ・放課後児童クラブ__放課後子ども教室とどのような連携をしていくか。ひとつの児童館で 2 クラブを開催しているなど、開催場所をどうするか、放課後児童クラブ単独の場所をどう確保するか。障害児受け入れ時に加配職員の配置をどう確保していくか。 ・留守家庭の高学年児童への対応（検討）__高学年の利用意向については、児童館の自由来館で対応している。 ・子育てに対する経済的な支援__国や県の動向をみながら、サービスを展開していくことが必要。	⑥保育サービスの安定供給（乳幼児 9、9-1） ・子どもの出産前後 1 年以内に母が離職したかの問いで「離職した」との回答が 42.3%ありました。その内訳で、仕事と家庭の両立支援環境が整備されていたら就労継続していたかの問いで「保育サービスが確実に利用可能である見込みがあれば継続して就労していた」「保育サービスと職場の両立支援環境の両方が整っていれば継続して就労していた」との回答は合わせて 21.2%あり、これは出産後の就労継続のために安定した保育サービスの提供を求めるニーズとかがえます。 ⑦放課後児童クラブについて（乳幼児 20・小学生 10、11） ・放課後児童クラブの利用状況をみると、全体で 12.6%の利用割合ですが、放課後児童クラブに今後希望することの問いについては「利用できる学年を延長してほしい」の割合が 30.0%、「費用負担を安くしてほしい」の割合が 23.6%と続き、制度の一層の充実が求められています。しかし一方では「現在のままでよい」の割合が 25.3%となっています。また、来年度小学校に入学することの放課後児童クラブの利用意向は、55.6%をしめています。 ⑧病児・病後児保育の利用意向（乳幼児 16・小学生 14） ・子どもの病気やケガで通常の保育サービスが利用できなくなった経験や、学校を休んだ経験をみると、乳幼児では「あった」の割合が 34.1%、小学生では 63.2%となっています。 ⑨実際にいる子どもの数が少ない理由（乳幼児 37-1、小学生 36-1、中学生 21-1） ・乳幼児では、「子育てや教育にかかる費用が大きい」の割合が 67.1%と最も高く、次いで「仕事と子育ての両立が難しい」の割合が 25.4%、「住宅ローンや家賃等の費用が大きい」「妊娠・出産の身体的・精神的な負担が大きい」の割合がともに 24.5%となっています。小学生では、「子育てや教育にかかる費用が大きい」の割合が 66.2%と最も高く、次いで「子育ての身体的、精神的な負担が大きい」の割合が 24.0%となっています。中学生では、「子育てや教育にかかる費用が大きい」の割合が 62.8%と最も高く、次いで「仕事と子育ての両立が難しい」の割合が 25.6%、「子育ての身体的、精神的な負担が大きい」の割合が 20.5%となっています。
現状・課題のまとめ	
②保育サービスの利用状況（乳幼児 10、10-1） ・定期的に保育サービスを利用しているかとの問いで「利用している」と回答があった家庭は 39.9%で、その保育サービスの種類をみると、市立保育園が 72.6%、市立幼稚園が 14.9%、私立幼稚園が 7.6%となっています。 ③保育所・園、幼稚園への要望（乳幼児 14、15） ・認可保育所・園（公立・私立）への要望として 1 位：「保育料を安くしてほしい」、2 位：「入所・園に係る事務手続きなどを簡素化してほしい」、3 位：「時間を長くしてほしい」の順で、幼稚園への要望では、1 位：「夏休みの等の期間も開園してほしい」、2 位：「保育料（授業料）を安くしてほしい」、3 位：「時間を長くしてほしい」の順となっており、どちらも利用時間の延長、保育料の軽減の希望に対する要望が高まっています。 ④一時預かりの利用意向（乳幼児 17、小学生 15） ・この 1 年間の一時預かりの経験をみると、「あった」の割合が乳幼児では 31.5%、小学生では 24.8%となっています。さらに理由別にみると買い物・習い事等、リフレッシュ目的、冠婚葬祭、保護者の病気、就労、すべての理由において利用されています。今後の利用意向においても、乳幼児・小学生ともに 1～3 日程度の利用希望が最も多くとなっており、理由を問わない「一時預かり」が柔軟な保育サービスとして求められています。	

清須市次世代育成支援行動計画＜前期＞ 施策別検証シート

1 計画（PLAN） 基本目標3：『家庭』における子育てと社会活動の両立支援 施策の方向：（4）ひとり親家庭への支援	前期行動計画の課題： 1. ひとり親家庭が増加しています。 2. ひとり親家庭においては、「経済的な支援」、「安定的な就業の支援」、「親が面倒をみることができないときの子どもの世話」などを求める声が多くなっています。また、小学校児童では「子どもだけで参加できる地域活動の実施」の割合が高くなっています。 3. 父子家庭においては、父親が家庭にいる時間が少ないことから、親子ふれあいの時間が少なく、地域との関係づくりも希薄となりがちです。
2 実施（DO） 【具体的事業】 別紙個別事業評価シート	
3 評価（CHECK） 【所管課（アウトプット）で把握した現状・課題】 - 母子家庭等日常生活支援事業__事業の存在を知らないと思われる人が多く、利用者が少ない。県や国の方針に基づき適正な給付を行っている。 - 就業相談員・母子自立支援員による相談__県や国の方針に基づき適正な給付を行っている。 - ひとり親家庭等に対する経済的な支援__県や国の方針に基づき適正な給付を行っている。 - 母子寡婦福祉協議会等の各種団体に対する支援__県や国の方針に基づき適正な給付を行っている。 - 母子生活支援施設への入所__県や国の方針に基づき適正な給付を行っている。	
	現状・課題のまとめ ・県や国の方針に基づき適正な給付を行っている

清須市次世代育成支援行動計画＜前期＞ 施策別検証シート

1 計画（PLAN） 基本目標3：『家庭』における子育てと社会活動の両立支援 施策の方向：（5）障害がある児童育成環境の充実	前期行動計画の課題： 1. 障害がある子どもを持つ保護者は、子育てしていく上でさまざまな不安・悩みなどを抱えています。 2. 障害児に対しての理解やボランティア等による支援、保育・教育体制の充実が求められています。 3. 療育センターなど、幼児期の子どもの発達を支援する施設の一層の充実が求められています。
2 実施（DO） 【具体的事業】 別紙個別事業評価シート	
3 評価（CHECK） 【所管課（アウトプット）で把握した現状・課題】 ・障害者福祉計画の策定__市内へのサービス事業者の参入がほとんどない点。目標値を立てても、達成できているかの検証方法がない。検証方法の確立が課題。清須市内に施設がないため、利用がない。 ・障害児と保護者に対する各種相談・保健指導__支援を必要とする児童が増加しており、定期的または継続的な相談及び指導が必要。たんぽぽ園につなげて継続的な支援ができるように、指導ができる場所が必要。たんぽぽ園との連携の強化。 ・母子通園施設__20年度に療育研究会を立ち上げ、21年度に成果目標を作成し、26年度までに達成可能なものから順次取組んでいく。 ・特別支援教育__教職員の特別支援教育に対する認識の向上が課題である。特別支援教育に対する温度差がある。 ・障害児日常生活用具給付等事業__児童だけで出している目標数値や実績はない。 ・特別児童扶養手当等による経済的な支援__市の福祉金額としては多く給付できている。 ・障害者（児）タクシー利用料等補助事業__タクシー料金補助の利用回数が、愛知県内の他の市町と比較して、多い。また、ガソリンについても他の市町よりもかなり補助額が多い。また、所得制限等はない。 ・障害者自立支援法による福祉サービス__障害のある子どもの育成環境の整備。	
	現状・課題のまとめ ・支援を必要とする児童が増加しており、定期的または継続的な相談及び指導が必要。

清須市次世代育成支援行動計画＜前期＞ 施策別検証シート

1 計画（PLAN） 基本目標4：妊娠・出産から生涯にわたる『健康』づくり 施策の方向：（１）安心して妊娠・出産ができるための支援	前期行動計画の課題： 1. 出産・育児に際しての心配事は、「育児についての不安」、「分娩に対する不安」、「妊娠中の母体の不調について悩んでいた」などが多くなっています。 2. 妊娠期においては、母親の生活状態（生活習慣）や心理状態が、胎内での子どもの成育に直接的に影響を与えることから、心身両面からの健康管理や家族の支援、周囲のあたたかい理解が必要です。
2 実施（DO） 【具体的事業】 別紙個別事業評価シート	
3 評価（CHECK） 【所管課（アウトプット）で把握した現状・課題】 ・母子健康手帳の交付__妊婦自身が母子手帳の受け取りに来所されないケースへの対応が課題。（まれなケース） 出産直前に母子手帳を取りに来所される場合などもあり、要フォローとなる。若年、高齢初産などハイリスク妊婦への対応。望まない妊娠を防止する対策。 ・母子健康管理指導連絡カード__勤労妊婦への周知が十分ではないか。周知は行えても、不況の影響などによる、妊婦の雇用に対して、雇用主の理解が十分とは言えないのではないか。 ・妊婦委託健診__市内、近隣に出産可能な医療機関が少ない。検査内容の拡充（21年度に関して）が課題。 ・妊婦歯科健診__受診率（31.4％）の低さ。指定外歯科医院で定期検査を受診している妊婦への対応。歯科検診を受ける必要性を認識してもらうことが課題。 ・妊婦健康相談__アンケートや交付時の状況から、積極的にこちらから相談にのるようにしているが、訴えの少ない妊婦に関しては、相談が十分できているか。喫煙している妊婦にたばこの害を説明しても、禁煙に結びつけることが難しい。不安に思っていることが金銭的な内容になると、他の相談機関への連携が課題。 ・妊婦訪問指導__未入籍や経済困難、家庭環境問題、外国人であるための言語の問題など。出産後のフォローになってしまうケースが多い。民生委員など周囲からの情報提供、気軽に施設を利用できるように周知する必要がある。 ・マタニティストラップ配布事業__継続して配布する。身に着けている妊婦がまだ少ないようなので、配布時にストラップの目的・効果をあわせて周知していく。 ・栄養相談(予約制)__相談日の利用が少なかったため、相談の機会が増えるよう、健診や健康相談に栄養士が出向いていたり、窓口で相談にのれるようにしていく。困った時に相談してもらえるように啓発していく。	
現状・課題のまとめ	
・市内、近隣に出産可能な医療機関が少ない。 ・アンケートや交付時の状況から、積極的にこちらから相談にのるようにしているが、訴えの少ない妊婦に関しては、相談が十分できているか課題が残る。	

清須市次世代育成支援行動計画＜前期＞ 施策別検証シート

1 計画（PLAN） 基本目標 4：妊娠・出産から生涯にわたる『健康』づくり 施策の方向：（2）乳幼児の健やかな成長支援	前期行動計画の課題： 1. 半数以上の保護者が、子どもの成長に対して気になることとして、「指しゃぶり」、「排尿（夜尿、オムツがとれない）」をあげています。 2. 乳幼児期は、人生の出発点であり、心身の基礎を作る大切な時期です。心の発達・習慣などを形成する時期でもあります。子どもの成長に対する不安やストレスも少なくありません。各種相談窓口の利用、家族の協力や子育て仲間との交流や支援のもと、一人ひとりの成長の違いを認識しながら子育てにあたる ことが大切です。
2 実施（DO） 【具体的事業】 別紙個別事業評価シート	【市民アンケート調査の結果（アウトカム）で把握した現状・課題】 ①かかりつけ医の有無（乳幼児 28、小学生 26） ・乳幼児では、「近く（市内）にいる」の割合が 76.3%と最も高く、次いで「近くではない（市外）がいる」の割合が 14.4%、「いない」の割合が 9.0%となっています。小学生では、「近く（市内）にいる」の割合が 76.6%と最も高く、次いで「近くではない（市外）がいる」の割合が 14.9%、「いない」の割合が 7.8%となっています。
3 評価（CHECK） 【所管課（アウトプット）で把握した現状・課題】 ・乳幼児訪問指導__100%の訪問を目指しているが、希望されない方や行けない方もある。母親の育児不安や悩みの軽減、虐待予防のため、100%の訪問実施を目指したい。 ・母乳相談__毎回予約が多い。日程調整が課題。 ・乳幼児健康相談__多くの利用者があり、近い会場や回数増が望まれる。 ・乳幼児健康診査__多くの対象者に受診してもらうため、近い会場が望まれる。受診率アップ。 ・幼児健診事後指導教室__教室に勧奨したい親子が増えている。また終了後の適切な受け皿へのつながが必要。 ・歯科教室__同日に実施しているため、混雑している。2 歳と 2 歳 6 か月を別日にし、目的を明確にしていく必要がある。う蝕予防としてどれだけ取組めるか、結果がすぐにはでないため、意識啓発が必要（親に対して）。 ・電話・面接相談__母子健康手帳の交付時のみでなく機会あるごとに啓発していく。 ・離乳食講習会__1 回あたりの利用者は増えている。利用しやすい会場や講習を聞きやすい工夫が必要。 ・予防接種__引き続き、接種年齢に達したら早めに接種することの啓発と定期内に接種するよう感染症予防の啓発が必要。 ・かかりつけ医の確保__今後の最新情報などの啓発が必要。予防接種受診時に市内の医療機関を紹介。	現状・課題のまとめ ・教室に勧奨したい親子が増えている。また終了後の適切な受け皿へのつながが必要。 ・アンケート調査では、乳幼児の保護者で「かかりつけ医がいない」と回答した割合が 7.8%と低い。

清須市次世代育成支援行動計画＜前期＞ 施策別検証シート

1 計画（PLAN） 基本目標4：妊娠・出産から生涯にわたる『健康』づくり 施策の方向：（3）学齢期・思春期の心と体の健康づくり	前期行動計画の課題： 1. 少子化・核家族化が進み、他人とのふれあいが減少し、命の大切さへの意識が希薄となる原因ともなっています。 2. 性の尊さを軽視される風潮や薬物などの誤った情報の氾濫など、思春期の子どもを取り巻く環境は悪化しています。 3. 一生のうちでもっとも心身が発達する思春期においては、健全な父性・母性を育むとともに、健康づくりなど、思春期保健の充実が求められています。
2 実施（DO） 【具体的事業】 別紙個別事業評価シート	【市民アンケート調査の結果（アウトカム）で把握した現状・課題】 ①性教育について（小学生 32、32-1・中学生 17、17-1） ・性教育についての親子での話し合いをみると、「全くない」の割合が小学生では 59.7%、中学生で 47.7%となっています。また、性教育について子どもと話さない理由として、中学生では、「どう話したらいいかわからないから」の割合が 37.7%と最も高くなっており、家庭における性教育の難しさがうかがえます。
3 評価（CHECK） 【所管課（アウトプット）で把握した現状・課題】 ・学校保健教育__アナフィラキシーの増加の傾向にあるが、それに適切に対応できるよう、さらに研究が必要。 ・体力づくり__運動の好きな子と嫌いな子の二極化。外に出る子と家からでない子がいる。 ・健康教育__喫煙、飲酒、薬物の低年齢化。	

清須市次世代育成支援行動計画＜前期＞ 施策別検証シート

1 計画（PLAN） 基本目標5：『安心・安全』のまちづくり 施策の方向：（1）子どもの遊び場・児童の居場所の整備	前期行動計画の課題： 1. 低学年保護者は「いつでも子どもが自由に遊べる屋内施設」、「木登りや泥んこ遊びなどができる場所」などを望む割合が高くなっています。 2. 児童本人は、「プールやグラウンドなどのスポーツ施設」、「自由に遊べる空き地や原っぱ」、「いつでも子どもが自由に遊べる屋内施設」を望む割合が高くなっています。 3. 児童館に対しては、保護者、児童ともに「自由に利用できる環境の整備」、就学前保護者は「親子で参加できる催し物の充実」、低学年保護者は「子どもだけを対象にした催し物の充実」、児童本人は「開館時間の延長」などを望んでいます。 4. コンビニエンスストア等が、中高生のたまり場となっているのが現状であり、安心して過ごせる居場所や活動の場が必要です。
2 実施（DO） 【具体的事業】 別紙個別事業評価シート	【市民アンケート調査の結果（アウトカム）で把握した現状・課題】 ①各種施設や事業の認知状況等について（乳幼児 34、小学生 33、中学生 18） ・各種施設や事業の認知度をみると、乳幼児、小学生、中学生ともに、「パパママ教室」「児童館」を「利用したことがある」「利用したことはないが知っている」を合わせた“知っている”の割合が90%以上と高くなっています。一方、乳幼児で「たんぼぼ園」「世代間交流ルーム」について「知らない」の割合が50%以上、小学生、中学生で「マタニティストラップ」「世代間交流ルーム」について「知らない」の割合が70%以上となっており、各種施設や事業の周知ができていないと考えられ、各種施設や事業内容についての更なる周知が必要といえます。 ②家の近くの子どもの遊び場に感じていること（乳幼児 39、小学生 40） ・乳幼児では、「雨の日に遊べる場所がない」の割合が39.6%と最も高く、次いで「遊具などの種類が充実していない」の割合が35.6%、「砂場が不衛生である」の割合が27.5%となっています。小学生では、「雨の日に遊べる場所がない」の割合が46.6%と最も高く、次いで「思い切り遊ぶために十分な広さがない」の割合が38.3%、「遊具などの種類が充実していない」の割合が26.1%となっています。
3 評価（CHECK） 【所管課（アウトプット）で把握した現状・課題】 ・公園・緑地の整備__地域の協力が得られるかが課題。 ・ちびっこ広場の整備__春日町合併による公園、ちびっこ広場、児童遊園等の適正な配置を検討する必要がある。 ・児童関連施設の整備__児童館の耐震診断を行った結果、耐震改修の必要はない。児童館本来の目的として、検討をしていく。	現状・課題のまとめ ・アンケート調査では、家の近くの子どもの遊び場に感じていることとして、「雨の日に遊べる場所がない」、「遊具などの種類が充実していない」の割合が高くなっている。

清須市次世代育成支援行動計画＜前期＞ 施策別検証シート

1 計画（PLAN） 基本目標5：『安心・安全』のまちづくり 施策の方向：（2）安全で快適な生活環境の整備	前期行動計画の課題： 1．子どもをとりまく環境の変化について、「交通事故が多くなった」と感じている割合が多くなっています。 2．子どもと外出するときに困ることとして、「買い物や用事を済ますあいだ、子どもを待たせておける安全な場所がない・少ない」が4割、「小さな子どもとの食事に配慮された場所がない・少ない」が3割弱となっています。また、7人に1人が「子どもが泣いたときなど、周囲の目が冷たい」と精神的な面をあげています。
2 実施（DO） 【具体的事業】 別紙個別事業評価シート	【市民アンケート調査の結果（アウトカム）で把握した現状・課題】 ①子どもとの外出の際に、困ること・困ったこと（乳幼児 40） ・乳幼児では、「交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていないこと」の割合が33.9%と最も高く、次いで「歩道の段差などがベビーカーや自転車の通行の妨げになっていること」の割合が31.4%、「小さな子どもと食事をする場所が少ないこと」の割合が27.7%となっています。
3 評価（CHECK） 【所管課（アウトプット）で把握した現状・課題】 - 交通安全教育__学校の授業の一環として行っている。学校の要望があってから関係機関に依頼している。 - 地域や関係機関との連携による交通安全対策__学校の授業の一環として行っている。学校の要望があってから関係機関に依頼している。 - 自転車の安全対策__学校の授業の一環として行っている。学校の要望があってから関係機関に依頼している。 - 交通安全施設の計画的な整備__街路灯という位置づけだが、防犯灯としては地域から理解してもらえない場合がある。 - 公共公益施設などのバリアフリー化__交通バリアフリー法でバリアフリー化補助対象の駅舎が1日の乗降客が5000人以上の駅が対象となっている点。	

清須市次世代育成支援行動計画＜前期＞ 施策別検証シート

1 計画（PLAN） 基本目標5：『安心・安全』のまちづくり 施策の方向：（3）子どもを犯罪から守る対策の強化	前期行動計画の課題： 1. 防犯に関する関心が高く、「街灯の充実」、「子どもへの防犯教育の実施」をはじめとした様々な取り組みや整備が求められています。 2. 「危険な時など手助けをしてほしい」など、犯罪の防止の協力を求める声が多くなっています。
2 実施（DO） 【具体的事業】 別紙個別事業評価シート	【市民アンケート調査の結果（アウトカム）で把握した現状・課題】 ①子どもの安心・安全の対策（小学生 31、中学生 16） ・子どもの安心・安全の対策をみると、小学生では1位：「子どもが遊びに出かけるときは、行き先を確認したり帰宅時間を決めている」、2位：「知らない人について行かないよう日ごろから話している」、3位：「塾や習い事などに行く場合には送り迎えをしている」の順で、中学生では、1位：「子どもが遊びに出かけるときは、行き先を確認したり帰宅時間を決めている」、2位：「知らない人について行かないよう日ごろから話している」、3位：「携帯電話を持たせている」となっています。 ②清須市で子育てする上で大切なこと（乳幼児 41、小学生 41、中学生 25） ・乳幼児では、「子どもを犯罪から守る対策の強化」の割合が 53.5%と最も高く、次いで「子どもの遊び場・児童の居場所の整備」の割合が 53.4%、「安全で快適な生活環境の整備」の割合が 44.6%となっています。小学生では、「子どもを犯罪から守る対策の強化」の割合が 56.7%と最も高く、次いで「子どもの遊び場・児童の居場所の整備」の割合が 48.4%、「安全で快適な生活環境の整備」の割合が 45.8%となっています。中学生では、「安全で快適な生活環境の整備」の割合が 51.2%と最も高く、次いで「子どもの犯罪から守る対策の強化」の割合が 50.4%、「子どもの遊び場・児童の居場所の整備」の割合が 42.6%となっています。
3 評価（CHECK） 【所管課（アウトプット）で把握した現状・課題】 ・学校や地域における防犯教室等__授業として組みこんでいない等市内全校で行っていない状況。 ・非行防止に向けての体制づくり__活動の内容、立場が違うため効果的な連携がとりにくい。 ・犯罪などに関する情報提供__警察からの情報提供が、捜査上の理由により課題がある。 ・子ども 110 番の家__不在の家が多い。 ・防犯灯の整備__街路灯という位置づけだが、防犯灯としては地域から理解してもらえていない場合がある。	